

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、多様な生徒に弾力的に対応可能な教育課程を編成する。</p> <p>②学習意欲の高い生徒に対して、個別に支援できる体制をめざす。</p> <p>③言語活動の活性化、協働的な学びを展開し確かな学力を育成する。</p> <p>④資格取得の推進に向けた工業科の指導体制を整備し、受検数及び合格率の向上をめざす。</p>	<p>①新学習指導要領の趣旨を理解した授業展開を実施する。</p> <p>②一人一台端末を有効に活用し、学習意欲の高い生徒がより一層の向上心を持つようになる。</p> <p>③ICTによる授業改善で生徒が「わかる喜び」「達成感」を感じることができる。</p> <p>④生徒が資格取得の意義を理解し、向上心をもって積極的にチャレンジする。</p>	<p>①新学習指導要領の内容に対応した指導計画の作成および新たな評価基準に準拠した評価の徹底を図る。</p> <p>②学習意欲の高い生徒及び伸び悩んでいる生徒が、向上心を持てるよう引き続き外部サービスとの連携等を通して授業内容を充実させる。</p> <p>③上級学年の授業においてもより専門性に特化した内容でタブレット端末を効果的に活用し、生徒それぞれの目標に応じた授業展開を目指す。</p> <p>④生徒の資格取得推進に向けて、学校として指導体制を整備する。</p>	<p>①新学習指導要領の実施を見据え、進路希望等に応じられるように教育課程・年間指導計画を作成できたか。</p> <p>②生徒の学習意欲が向上したか。(アンケート調査および外部サービス統計データ等を活用し検証する)</p> <p>③多数の生徒が「わかる喜び」「達成感」を感じられたか。上級学年においては特に専門教科でも感じられたか(授業評価等)</p> <p>④生徒の受検・受講者数が増加したか。(昨年度比)</p>					
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①基本的生活習慣の定着と生徒が主体的に社会のルールやマナーの意味を考える指導の充実を図るとともに、潜在的ニーズにも対応可能な教育相談体制を構築する。</p> <p>②生徒の学校への帰属意識を醸成させるた</p>	<p>①身体的、精神的に生徒一人ひとりの学校生活が充実するようになる。</p> <p>②生徒が学校行事や部活動に主体的かつ積極的に</p>	<p>①各月毎に学年会で生徒情報を共有、校内教育相談コーディネータ連絡協議会で各生徒に対して、適切な支援策を検討・提案し実行できる体制を整備する。</p> <p>①社会におけるルールやマナー等について、指導方針を職員間で共有し、登校時・昼休み時間を中心に継続的に指導する。</p> <p>②部活動紹介や、活動日や活動場所などを明確化</p>	<p>①学年会を実施し支援が必要な生徒に対して情報共有ができたか。校内教育相談コーディネータ連絡協議会で適切な支援策を検討・提案することができたか。(会議実施回数、内容)</p> <p>①指導方針を共有して、登校時・昼休み時間を中心に継続的に指導できたか。</p> <p>②部活動の加入率が昨年度よりもあげられたか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	め、学校行事の改善及び部活動を活性化させる。	関わり、自信をもち、自己肯定感を高める。	し、加入率を上げる。 ClassroomなどICTを活用し、生徒会執行部や委員会・部活動など連携をとり、生徒主体の学校行事を行っていく。	各行事に生徒が積極的に参加できたか。					
3	進路指導・支援	①キャリア教育実践プログラムに基づき、学校として体系的な進路指導を行い、生徒の進路実現をサポートする。 ②建設科の生徒に対応した、進路先(大学、企業)の開拓を着実に進める。	①個々の生徒が進路実現に向けて、主体的に進路選択をできるようにする。 ②生徒が職業観・勤労観を様々な場面で身に付ける。	①進路選択の幅が広がるようなガイダンスを実施するとともに、ICTを活用した試験対策なども行い生徒一人ひとりの進路実現を目指す。 ②建設科設置に伴い、インターンシップ受け入れ先に建設業を導入する。	①生徒一人ひとりが主体的に進路活動を行い、進路実現ができたか。(進路実績の比較) ②生徒が建設業事業所で職業体験を行えたか。(実施事業所数、人数)				
4	地域等との協働	①地域と連携することを通して生徒のコミュニケーション能力の向上を図り、生徒の「生きる力」を育むとともに「共生」の意識を醸成する。	①生徒が「地域貢献」に関わり、地域との協働の意義を理解し、共生及び安全に対する意識をもたせる。	①地域施設や小学校でのものづくりイベントやコンソーシアムなどを継続強化するとともに課題研究など工業高校の特色を活かす。	①生徒が地域との協働の意義を理解し、共生及び安全に対する意識をもっているかアンケートを実施する。				
5	学校管理 学校運営	①業務の効率化を図り、職員の働き方改革を推進する。 ②日常的に、事故・不祥事防止に係る研修会を実施し、職員に当事者意識を持たせるように努める。 ③職員の学校運営への参画意識の向上を図る。	①業務へのICTの活用を推進するとともにペーパーレスに取り組む。 ②研修会や討議会などを通じて、職員の自己管理能力を高める。 ③ICT機器を活用し、多くの職員から意見が出せるように工夫する。 ④職員と生徒が一体となり、清掃活動を重んじ、学校内外の環境整備に努める。	①ICTを活用して情報共有を進めて、できるだけ対面での会議・打合せを削減し、業務の効率化を図る。 ②職員主体で各種研修会等を企画する。また事故防止研修会を開催する。 ③TeamsやGoogleアプリを活用し、普段から活発に意見が出せる環境づくりを行う。 ④毎日清掃活動を続けていく。	①対面での会議の回数、時間短縮が図ることができたか。 ②職員の当事者意識が高まったか職員アンケートを実施する。 ③職員の学校運営に係る参画意識が向上したか。 ④清掃活動を通じて職員および生徒間で意識改革があったのかアンケートを実施する。				

